

4. 「生活機能」とはICFの中心概念：「心身機能」「活動」「参加」の包括概念

生活機能とは、ICFの中心概念であり、人が「生きる」ことの3つのレベル(階層)である、

- ① 心身機能・身体構造 (Body Functions and Structure)、
- ② 活動 (Activity)、
- ③ 参加 (Participation) の3者を包括した概念である。

これは、生物(生命)・個人(生活)・社会(人生)の3つのレベルに相応する。

生活機能とは、英語の Functioning の訳であるが、この英語の単語も、新しい内容を示すように再定義されたものである。

3つのレベルの内容は次の通りである。

(1) 心身機能・身体構造(生物レベル、生命レベル)

生命の維持に直接関係する、身体・精神の機能や構造で、これは心身機能と身体構造とを合わせたものである。

心身機能とは、たとえば手足の動き、精神の働き、視覚・聴覚、内臓の働きなど。

身体構造とは、手足の一部、心臓の一部(弁など)などの、体の部分のこと。

(2) 活動(個人レベル、生活レベル)

生活行為、すなわち生活上の目的をもち、一連の動作からなる、具体的な行為のこと。

これはあらゆる生活行為を含むものであり、実用歩行やその他のADL(日常生活行為)だけでなく、調理・掃除などの家事行為・職業上の行為・余暇活動(趣味やスポーツなど)に必要な行為・趣味・社会生活上必要な行為がすべてはいる。

またICFでは「活動」を「できる活動」(「能力」と「している活動」(「実行状況」)との2つの面に分けて捉える(参照：p3-9)。

(3) 参加(社会レベル、人生レベル)

家庭や社会に関与し、そこで役割を果たすことである。

社会参加だけではなく、主婦として、あるいは親としての家庭内役割であるとか、働くこと、職場での役割、あるいは趣味にしても趣味の会に参加する、スポーツに参加する、地域組織のなかで役割を果たす、文化的・政治的・宗教的などの集まりに参加する、などの広い範囲のものが含まれる。